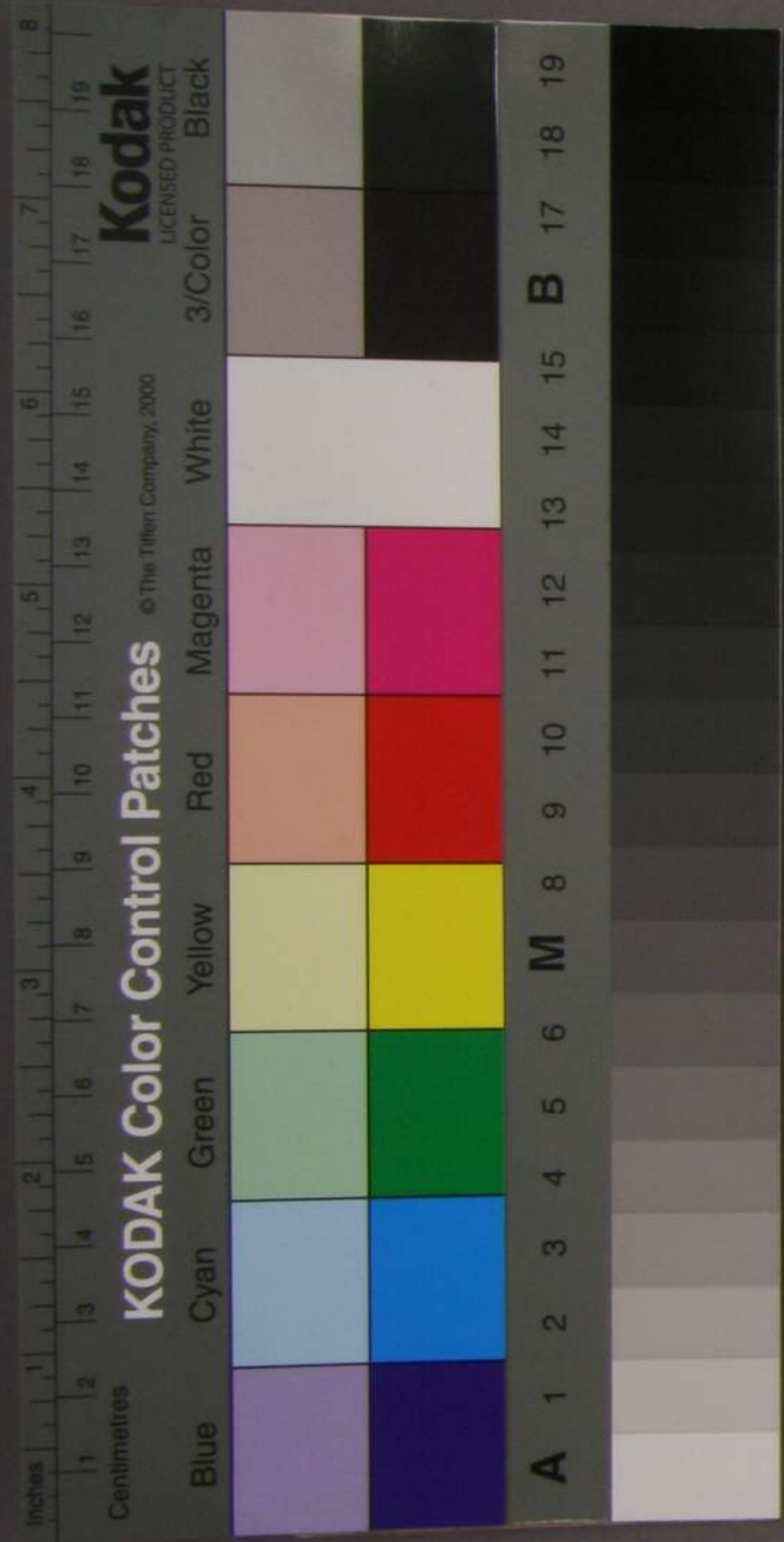




乙
千八百七十九年五月十二日刊行
「ボンベ」港商法會議所報告
ヨカゼット新聞抄譯



1662



大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

鬼頭悌次郎譯

地商法會議所報告ノ續
百七十九年五月十二日刊行孟買ガゼット新聞掲載同

凡ッ當孟買港ヨリ海外ニ輸出セラル小麥并ニ諸種ノ種物ノ如キ
ハ殆ト皆中央印度ノ產地ヨリ孟買港ニ輸送スルモノニ係ル然
リ而シテ前文ニモ既ニ開陳セシ如ク輓近此等數品ノ貿易大ニ
増殖ノ勢ヲ示セリ然ルニ今マ此等ノ產地諸方ヘ大ニ鐵道ヲ通
シ併セテ汽車料ヲ低減シテ以テ當港迄此等ノ產物ヲ輸送スル
ノ便ヲ得セシメハ猶ホ一層此等數品ノ輸出貿易ヲ大ニ開闢擴
張セシムルニ至ルハ普ク輿論ノ許ス所ニシテ一點ノ疑フヘキ
モノ莫シ

熟目下ノ狀況ヲ觀察スルニ中央諸地方ヘ架セシ錢道ハ僅ニ
ナグポールニ通スル丈ケナレハ線路短小ニ過キス即チ「ジアイ、

「會社ノ鐵路此地ニ止マルモノトス

「ナグポールヨリ東ノ方「グハチスガール」ハ一條ノ鐵路ヲ布カン
トノ議ハ爰ニ數年印度政府ノ深慮萬考スル所ナリ又「ナグポー
ルヨリ「エポール」迄鐵路ヲ延フルノ議「客歲既ニ政府ノ允可
スル所トナレリ夫レ然リトモ當商法會議所ニ於テハ其
線路ヲ狹幅線ニテ築造スベキ議ナリシヲ遺憾トセリ
蓋シ「グハチスガール」迄鐵路ヲ布カハ為メニ「グハチスガール」ノ
諸地方開發スルアルヘシ抑モ此諸地方ハ中央諸地方中ニ就キ
最モ人口稠密ノ土地ニシテ殊ニ百般ノ農產物ヲ生スルノ高巨
大ナリトス然ルニ此地ヤ令マ運輸ノ便法ヲ欠クガ為メニ殖產
開發ノ「爰ニ停止スルノ歎ナキアタハス
然ルニ此「グハチスガール」迄鐵路ヲ布カハ其ノ周圍ノ諸地方ヨ
リ齎ラス所ノ穀物種物類ノ運輸陸續積ンテ山ヲ為スカ如クニ

至ル而已トラス猶且ツ其線路ハ終ニ「カルカッタ」府ト孟買港ト
ノ間ノ本往復ノ全線路トナルニ至ルベキナリ其ノ然ル所以ノ
モノハ他ナシ他日線路ヲ延テ「ナグポール」ヨリ「カルカッタ」府迄
及ボサバ「其途中「度國」ノ最モ豊饒ナル諸地方ヲ遮リ「カルカッ
タ」府ト孟買港トノ距離凡ソ二三百英里ヲモ短縮スレハナリ」
蓋シ狹幅線路ハ本線路ノ副道若クハ地方ノ線路ニテ運輸ノ左
マデ巨額ナラザル所ニハ或ハ之ヲ用ユルモ可ナランナレトモ既
ニ今日迄數年ノ經歷ニ依テ視レハ鐵路ヲ築造スルニ當リ仮令
ニ廣幅線路ニスルモ狹幅線路ニスルモ廣狹ノ差ハアレ其最前
築造ノ費用ハ左マテ著シキ多寡ナキテ徴セリ又運輸ノ烈シキ
地ニ狹幅線路ヲ以テスルハ其運轉ノ費用ハ却テ廣幅線路ノ
モノヲ運轉スルノ費用ヨリモ一層多キヲモ証徴セリ
夫レ然リ然ラハ則既ニ本線路中ニ往々狹幅線路ヲ以テセシモ

ノ、如キハ當印度國將來ノ貿易上ニ害ヲ波及スルアルト云フ
モ尚ホ証言トナスヘカラス其狹幅線路ヲ以テセシモノハ孟買
港ヨリ「デルヒ」迄ノ錢路并ニ「ナグポール」ヨリ「エポール」マデ
ノ錢路ノ如キ則テ是レナリ凡ソ印度國内ノ錢路ハ本線ニ限り
必ラス一定同様ノ幅線路ニテ築造ヤスンハアルヘカラザル旨
ヲ再三印度政府ニ勸メ又大本線路ノ中既ニ狹幅線路ニテ築造
セシモノハ他日全國ノ線路尽ク完備スルヲ俟テ莫大ノ損失ヲ
顧ミスシテ廣幅線路ニ改造セスンバアルベカラザルノ旨ヲモ
政府ニ勸ムル實ニ再三ニ及ヘリ

抑モ本線路ハ狹幅線路ヲ誘用セシカ為メニ輸出貿易上ニ非常
ノ妨害トナルノ事ハ昭々乎トシテ夫レ明ラカナリ然ラハ蓋シ
當局者ハ飽ク迄モ其説ヲ政府ニ陳ヘテ以テ「ナグポール」ヨリ「
エポール」迄ハ勿論猶ホ其東方ヘモ廣幅線路ニテ錢路ヲ布キ且

ツ孟買港ト「デルヒ」トノ間ニ架設ヤシ錢道ノ中既ニ狹幅線路
ヲ以テ築造セシ部分ヲ更ニ廣幅線路ニテ即時ニ改造スヘキ議
ヲ稟申シ以テ輸出貿易ヲ開發スルヲニ付キ充分ノ尽力ヲナス
アルハ瞭然タリ

夫レ「ナグポール」ヨリ「エポール」ニ至ル迄廣幅線路ニテ錢路ヲ
布クノ「速」ニ竣功ニ至リ併ヤテ其錢路ヲ延テ同様廣幅線路ニ
「ナグポール」迄及ボサバ為メニ印度全國ニ取り實益ヲ生ス
ルモノ實ニ舉テ數フベカラス其故何トナレバ熟々此間ノ線路
ニ依リテ運輸ヲナスノ性質ト其運輸ノ額巨大ナルトヲ豫察シ
來レバ凡ソ此ノ間ノ線路程廣幅線路ヲ用ヒ巨量ノ運輸ニ堪ユ
ルヲ要スルモノハ一モ在ラザレバナリ又孟買港ト「デルヒ」ト
ノ間ニ架ヤシ錢路ヲ除ケハ此間ノ線路程印度ノ穀物貿易ヲ大
ニ奨励擴張ヤシムルモノハ他ニアラザレハナリ

ナグポールヨリ「サムバルポール」迄鐵路ヲ布クニ付キ其線路ノ經過スヘキ途中ハ盡ク穀類生産ノ諸地方ニシテ所謂印度ノ穀倉ト唱フル要地ナリ夫レ此線路ノ設ケアレハ夫レガ為メニ此等豊饒ノ諸地方ヲ開發スルニ於テ其效驗ハ實ニ著ルシト雖モ僅ニ此本線路ニ加フルニ廉價ノ支線路ヲ以テシ併セテ道路ヲ開カハ此等諸地方ノ輸出力ヲ充分ノ開發ニ来スアルヘシトス抑モ此ノ鐵路築造ノ計策タル出入上ニ於テ果シテ好果ヲ結フアルハ此等諸地方ノ非常ニ豊饒ナルヲ以テ豫メ之ヲ保スルニ足レリ果シテ然ラハ印度ノ輸出ヲ増殖シ併セテ大ニ印度人民ノ幸福上ニ影響ニ及ボシ隨テ印度政府ノ歲入ヲ増大セシムルハ右ノ良策ニ依ルノ外他ニ毫モ此類ノ良策アルヲ視ザルナリ凡ソ此等ノ諸地方ヲ開發スルノ今日ニ欠クベカラザルノ要務ナルヲハ是レ迄實ニ毎年印度政府ニ建議セザルハナカリシ是

レ寔ニ以上ノ如キ豫想ヲ懷クアレバナリ蓋シ此等ノ諸地方ヲ開發セハソレガ為メニ印度全國ノ人民ヲシテ爰ニ身體共ニ開化進歩セシムルノ最良結果ヲ来スナルベシトス然リ而シテ此等諸地方ノ農業統計表ニ據レハ此ノ開發ノ度他日高點ニ達スベキヲ明示セハ此開發ノ好果ヲ結フハ蓋シ疑ヲ容レス

自千八百七十二年至同七十三年間ノ印度全國人民ノ身體ノ進歩及ニ其國狀ヲ記載セシ報告議院ノ定例ニ遵ヒ上下兩院へ上呈セシ報告ナリ中貳拾六枚目ニ云ク中央諸地方ノ面積三千六百〇四万六千二百五拾エークルニシテ其中三分ノ一以下ハ既ニ耕地ニ係リ残り凡ソ三分ノ土地モ耕作ニ適スル地ナリト然ルニ首長ヨリ政府ニ呈セシ自千八百七十六年至同七十七年間ノ中央諸地方ノ貿易并ニ利源ニ関スル報告ニ就キ觀察スル

ニ其第十一枚目ニ云ク既ニ耕作ニ從事セル面積ハ(最前ハ報告書中ニ載セザリシ)サムバルポールノ面積ヲモ算入シ凡ソ千四百五十萬エークルニシテ残り千百五十萬エークルハ今猶ホ耕作ヲ試ミサルモノニ係ルト

サテ千八百七十八年三月三十一日ヲ以テ終リタル年間ニ孟買港ヨリ輸出セシ小麥并ニ種物類ノ總額ハ其量目四百二十八萬八千二百六十八「ホンドルド、ウエー」トナリ而シテ其ノ輸出品ハ大概中央諸地方ノ産スル所ニ係ル然ルニ此年度ノ輸出額ヲ千八百七十五年三月三十一日ヲ以テ終ル年度ノ輸出ニ比スレハ殆ト三倍方モ増カセリ果シテ然ラハ今ヨリ大ニ錢道ヲ布キ道路ヲ經營シ以テ此等ノ中央諸地方ヲ開墾スルアラハ此土地豐饒ナルガ故ニ未耕作ノ面積千百五十萬エークル忽チ耕植ノ良地トナリ隨テ其物産ノ輸出額殆ト相倍スルニ至ルヲ豫想スル

ハ敢テ由一キニアラザルベシ

「ナグポール」ヨリ「サムバルポール」迄錢路ヲ通スルハ實ニ今日ノ急務ニシテ且ツ此錢路ハ入ル所ヲ以テ出ツル所ヲ償フニ足ルモノナルニモ拘ハラズ印度政府ハ其中ノ一部分即チ「エポール」迄ノ線路築造ノ「ワイヤナガラ」許允シ剩サハ狹幅線路ニテ築造スベキヲ許セリ當商法會議所ニ於テハ此至緊至要ノ線路築造ノ「ハ」如何ノ運ビニ至リタルカ毫モ聞及ヒタルヲナシ錢道築造ノ「ハ」實ニ是レ迄數回印度政府ハ逼リ其今日ニ欠クベカラザルノ急務ナルヲ申陳セシ所ニ係リシカ猶ホ自千八百七十六年至同七十七年間ノ中央諸地方ノ貿易及ヒ利源ニ關スル首長ノ報告書中ヨリ左記ノ文ヲ採葺シテ以テ本國ノ政府ニ稟申スル所アルベシ其報告書中第五六七枚目ニ云ク

(第八)「ナグポール」ノ錢道極處ヨリ東ノ方ク「ハチスガル」ハ錢路

ヲ築造セントノ建議ハ爰ニ數年深思萬考スル所ナリ夫レ此
クハチスガルノ地タルヤ產物ハ小麥米其他ノ農產物ニシテ
其收穫ノ極メテ巨額ナルハクハチスガルヲ以テ印度ノ穀倉
ト唱フコソ相應ナルヲ以テ知ルヘキナリ此鐵路築造ノ計畫
タル本國ノ國務卿并ニ印度政府ノ既ニ允可スル所ナリ千八
百七十六年ヨリ七十七年ニ亘リ測量師輩レエポール近傍カ
リアンポール迄距離百二十一英里半ノ全線路ニ就キ結局ノ
測量ニ從事シ其事業已ニ完結スルニ及ヘリ

然ルニ印度政府未タ其線路ヲ廣幅ニスルカ狹幅ニスルカ其
如何ヲ廟決セサルガ故ニ其計畫豫算ノ用意ニ付テ至要ノ計
算ヲ立ツルニ由ナク加フルニ飢饉ノ在ルアリテ其災害ヲ測
量家輩ニ波及スルコト本年早春殊ニ甚シキニ至レリ
實ニ斯ノ如キ狀況ナクシテ以テ此至緊至要ナル計畫ヲ荏苒

遷延スル萬止ムヲ得サルニ出テタルモノトス此ノ間ノ線路
ハ廣狹ノ内何レヲ用ユルカハ實ニ第一ニ深思萬考スヘキモ
ノトス何トナレハ他日此線路ヲ延テランガンダ近傍諸地ノ
線路ト連接セナルヘカラサレハナリ

然リト雖本年間ニレエポール近傍ノ鐵道極處外ノ地方即
チ「ベンガル」ノ支流「メルハス」河ニ境界ヲ通スル地方ノ極東ナ
ル「サムバル」ポールニ至ル迄ヲ盡ク檢査測量スルコトニ廟決セ
リ依テ老練ノ測量師并ニ其屬吏トモ其事業ヲ實施スヘキ委
任ヲ受ケタリ

レエポール鐵道極處ヨリ通スベキ道路三筋ノ事ニ付テ建議
セリ其一ハ極處ヨリ「ピラス」ポールヲ經テ「コルバ」ニ至ル其二
ハ極處ヨリ「ピラス」ポールニ至リ夫レヨリ「マハナジ」河ノ河
流ト平行サル一般道路ヲ經テ「サムバル」ポール近傍談河ノ左

岸ニ至ル其三ハ極處ヨリ「レ」エポールヲ經テ直接ニ「サ」ムバル
ポールニ至ル以上ノ三道ナリ右ノ三道中一ハ距離二百二十
英里、二ハ百五十四英里、三ハ百二十英里ニシテ各其距離ヲ異
ニス其中ニ就テ最モ短キモノハ「レ」エポールヲ經テ正東ノ方
「サ」ムバルポールニ至ル其直接ノ距離ナリ

此等ノ粗測量ノ報告書ハ余カ當印度國ノ貿易上并ニ一般ノ
繁榮上ニ於ケル各道ノ效用ト其影響ヲ波及スルヲニ付テ稿
セシ草案ハ併セテ之ヲ印度政府ヘ送呈セシ所ニ係ル

夫レ右ノ線路ヲ布クハ固ヨリ緊要ノ「ナ」リト雖モ此線路ノ
如キハ未タ「ク」ニスガル「レ」迄ノ線路ヲ俟ツガ如クニ目下ノ急
務ニアラサルナリ請フ其然ル所以ヲ述ヘン

抑モ中央諸地方ノ人口殆ト半ハ其農産物殘餘ノ分ヲ販賣ス
ベキ市場ハ遠ク數百里ノ外ニアリテ容易ニ其市場ニ達スル

能ハサルハ實ニ目下ノ状況ナリ夫レ「シ」ハケスガルノ全地至
ル所皆小麦、米、亜麻仁其外ノ諸品トモ遠ク數百里ノ距離ヲ經
テ「ト」ロカルナル「レ」一名「カ」リアンポールニシテ「ナ」グポールヲ
距ル「百二十一英里ナリ」ニ輸送シ同地ニ於テ看スル非常ノ
低價ヲ以テ土著ノ商估若クハ「ナ」グポール及ヒ「カ」ハナールヨリ
ノ代理人或ハ「ベ」テールヨリノ代理人ニ賣渡スモノトス尤モ
近來ニ至リ孟買港ヨリノ代理人ヘ賣渡スモアリトス

「ド」ンガルガールヨリ「ナ」グポール迄ハ東道筋ヲ經荷車ヲ以テ物
産ノ運輸ヲナスモノトス其荷車ハ一輛毎ニ凡ソ量目壹噸内外
ノモノヲ積ムニ足ルモノナリ而シテ其運賃ハ高カラス低カラ
ズシテ恰モ「ナ」グポールヨリ孟買港マテ凡ソ五百英里ノ鐵道運
賃ト殆ト高低ナキ程ナリトス

抑モ「ク」ハチスガルノ開發今日爰ニ停止スル所以ノモノハ他ナ

シ畢竟此「ドンガルガール」ヨリ「ナグポール」迄僅々ノ距離ニ鐵路ヲ布カザルニ職由スルモノナリトス候令ニ此間ニ荷車、牛等ノ備ヘアリテ僅ニ運輸ノ便ニ供スルニ足ルト雖モ未タ以テ其需求ニ應スルニ充分ナラス目下此間ニ一橋ノ鐵路ヲ布カハ好天氣ノ節ニハ二回若クハ三回ノ往復ヲナスアルニモ拘ハラス「クハチスガール」ニ於テハ好天氣ノ時季僅々ニ過キザルガ故ニ農夫ノ晴雨如何ヲ恐懼スル恰チ米穀ノ豐凶如何ヲ恐ルガ如ク夫レ甚シ其之ヲ恐ル、ノ斯ノ如ク夫レ甚シキ所以ノモノハ他ナシ其農夫ノ產物市場ノ良劑トナルハ僅々此好季ノ間ニ過キスシテ「令」如何ナル低廉ノ價ナルモ之ヲ販賣シ貨幣ヲ得テ以テ其田租ヲ拂フノ用途ニ供セザルベカラザレハナリ

余ハ以上論及「ル」所ノ外最早今日ノ議場ニ於テ此「クハチスガール」鐵路ノ築造今日ノ急務ニシテ至緊至要ナルヲ贅言スルヲ要セス其故何トナレハ現ニ印度政府ニ於テハ此鐵路築造一件ニ關シ充分詳細ニシテ最モ輓近ノ報告ヲ所持スルアレハトリ唯余ハ憂フ財政ノ觀察亦暫ラク其築造ノ延期ヲシテ止ムヲ得ガラシムルヲ嗚呼豈ニ慨嘆セサルヲ得ンヤ

孟買港ヨリ「テルヒー」ニ至ル迄ノ鐵路并ニ「ナグポール」ヨリ「サムバル」ニ至ルノ鐵路トモ「西ツナガラ」廣幅線路ヲ以テ族功ニ至リ併セテ低廉ノ支線并ニ道路ヲ大ニ通シ右等ノ本線路ト連結往復ヤシメテ以テ中央諸地方ヲ開クハ實ニ西方印度ノ利源ヲ開發スルニ於テ至緊至要ノ事業ナリ

至要ノ鐵路豈ニ之ニ止マランヤ其他今日ニ緊要ナルモノ固ヨリ数多ナリ當會議所ノ所見ニテハ其中ニ就キ最モ至要ナル線路ハ今現ニ「ビ、ビエンド、シ、アイ」會社ノ鐵路ヲ設ケシ「アナウン」

ヨリ「カッタヤワル」迄（此地未ダ全ク開ケストス）ノ線路ト又「アナ
ウインド」ヨリ東方「ラットラム」迄ノ線路ト此二者ナリ其次ニ至リ
テ最モ必要ナル線路ハ「デックサル」若クハ「ジョーラポール」又ハ
「チ、アイ、ピー」會社ノ鐵道設置アル其他「場所」ヨリ「ホブリー」若ク
ハ「タルワル」綿生産地ノ内中央ノ場所迄線路ヲ延クヲ要務トス
實ニ西印度ノ地タル全ク鐵路ノ設ケナキガ為メニ其開發殆ト
爰ニ遲緩停止スルアルト云フモ不可ナラス

凡ソ内外人ヲ論セス苟モ印度ノ実況ニ通スル人々ハ目下印度
ニ於テ上等ノ道路ニ乏シク其之ヲ要スルハ殆ト其鐵路ニ於ケ
ルカ如ク夫レ甚ニキハ一目瞭然タルベシ又此等ノ道路ヲ大ニ
各諸地方ニ開通スルアラハソカ為メ内地ノ貿易ヲ振起スル少
小ナラザルハ是亦一目瞭然ナルベシ

然ルニ千八百四十五年ニ至ル迄ハ凡ソ印度諸地方東方トナク

西方トナク南方トナク北方トナク何レノ方面ニ至ルモ体面具
備セル道路ノ築造ニ著手セシヲ勿リシ爾來印度國內ニ築造ナ
リタル諸道路ノ里程ヲ詳細ニ取調ベント欲スレハ當會議所ニ
於テハ之レヲ細知スル能ハス然レハ顧フニ英領印度國ノ全地
ニ築造セシ道路ハ其里程總額ニテ蓋シ五万英里ニ過ザルベ
シトス然ルニ英國ノ如キハ其面積ハ僅々五萬方里ニ過キザレ
ハ碎石ヲ鋪キタル大道路ノ里程ハ恐ラク十三萬英里ノ多キア
リトス

當會議所ノ考案ニ依レハ今日ノ如ク夫レ印度ノ渴望スル往復
通運ノ便ヲ設ケントテ一般ノ総論ヲ主張シ徒ニ當局者ノ光陰
ヲ空フセシムルハ甚タ無益ノ至リトナス所ナリ

凡ソ鐵道ト道路ト此二者ノ人間ニ至益ナルハ筆紙ノ能ク尽ク
ス所ニアラス苟モ此兩者ナカリヤハ豈ニ快樂ヲ得テ迅速ニ東

西南北ニ來往スルヲ得ベケニヤ然ラハ若シ英國本国ニ於テ喋
々スルカ如ク果シテ當百紀ノ首メニ當リ大ニ蘇格蘭ニ大道路
ヲ開キシガ為メニ蘇格蘭ノ開化ヲシテ少ナクモ一百年モ急進
セシメタリトナシ又輓近大ニ愛爾蘭ニ新道ヲ開キタルノ結果
ハ實ニ商賣上ニ無比ノ影響ヲ波及セシガ如ク道德上并ニ社會
ノ交際上ニモ其効力ヲ及ホセシニ相違ナシトスレハ當印度國
ノ如キ殆ト水運ノ便ヲ缺クガ故ニ道路ノ便ヲ設クル實ニ今日
ノ急務ナルノ大地ニ於テモ施スニ右同様ノ原因ヲ以テセハ豈
ニ愛蘇兩國ノ如キ好結果ヲ得ザルノ理アラシヤ
抑モ印度國貿易ノ如キ自他何レノ國ナリトモ印度ノ如ク人口
多ク印度ノ如ク貿易ニ適スベキ地ノ貿易額ニ比スレハ猶モ遙
ニ他國ニ劣ルノ實アルハ衆說皆以テ然リトナシ一人ノ之ヲ否
ト云フモノナシ又今日ニ至リテ猶ホ當印度國ノ廣大ナル利源

ヲ開發スルノ事業タル僅々些少ノ進歩ヲナセシニ過キザルハ
是亦衆說ノ然リトナス所ナリ
若シ印度ノ原野ヲシテ耕植セシメント欲セハ先ツ其利源ヲシ
テ利用ニ就カシムルノ途ヲ供ヘスニバアルベカラス抑モ中央
印度ノ諸產地中僅々其三分ノ一有餘犬現ニ耕植セシメナリ
然ルニ其耕植ヤシ地僅々三分ノ一有餘ニ過キザレバ猶ホ豐作
ノ年ニ至リテハ其産スル所ノ物産中腐敗シ易キ品ハ殆ト厘毛
ノ價ヲモ得ル能ハスシテ止ムモアリ中ニハ實ニ生熟ノ俚田野
ニアツテ腐敗ニ就クモノ間々アリトス是レ皆職トシテ道路ノ
便ヲ缺キ出ツルニ路ナキノ因テ然ラシムル所ニ係ル印度ノ景
況斯ノ如キ間ハ此地方ノ進歩ヲ見ルノ期ナキナリ凡ソ事物ノ
狀況實ニ斯ノ如ク夫レ衰頹ナルノ間ハ仮令ニ農夫ハ其運送ヲ
改良シ其物産ノ出路ヲ開カント欲スト雖モ得ベカラザルカ故

ニ敢テ勞力勉勵ヲ務メズ隨テ苦辛以テ日々ノ活路ヲ繫クニ足
ルノ供給ヲ得ルニ苦々トシ依然目下ノ狀況ニ止マラサルベカ
ラス

畢竟我人カ地租ノ壓制ニ堪ユルハ苦辛以テ之レヲ納ムルニ因
ル而已夫レ地租ハ如キハ一体其租ハ例外輕クシテ之ヲ平均ス
レハ當管内ノ耕地一エークルニ付僅々小額ニ過キサレ然レ
モ其全額ニ於テハ耕植ヨリ因テ生スル所ノモノ、内甚々巨大
ナル部分ヲ吸入スルモノトナス

抑モ今日斯ク迄當印度國ノ商況萎靡シ且ツ當孟買ヨリノ輸出
貿易兼テ豫想セシ所ノ額數ニ比スレハ大ニ縮退ノ色ヲ表セシ
ハ皆職トシテ鑛道ト道路ニ乏シキノ致スナリト當商法會議所
ハナスナリ又我印度ノ輸入貿易ノ今日ノ形狀ニ至リシモ其原
因ヲ輸出貿易ノ衰頹ト同フセリ我印度國輸入貿易ノ衰頹如何

ハ宜シク英國製造者ヨリ我印度國へ輸出セシ分頭割ノ高ト南
亞米利并ニ濠國へ輸入セシ高トヲ比較セハ一目瞭然タラン

内地運輸ノ付テハ當商法會議所ハ固ヨリ運河ヲ次テセル
ヨリモ鑛路ヲ設クルヲ好ムト雖モ又「ゴットアベリ」河并ニ「キ
ストナ」河其他ノ諸河流ノ水路ニ因リテ運輸セハ測ルベカラザ
ル便益ヲ生スルノ實アルヲ輕忽視スル能ハス當商法會議所ハ
當局者カ水利ニ関スル一件ノ諸報告等ヲ遣ス所ナク必ラス出
板シテ以テ世ニ頒タンヲ敢テ當局者ニ勸言ス

當會議所ハ「聊」河ヨリ水利ヲ開クノ目論見ヲ陳言シテ
當局者ノ參考ニ供セントス抑モ此「パネ」ノ深淺等ニ付テハ
測量ヲ試ミ報告ヲ製セシ「愛」年アリキ然レモ未タ毫モ其土
水ニ著手セシ「勿」リシ

「カ」テイン、オスボルン、チャムベルス氏ハ其「シ」エラツトニ於テ

草ヤシ千八百六十年十一月一日付ノ「タプチ」河ヨリ水利ヲ開
ク目論見ニ関セシ報告書中ニ論決シテ云ク「タプチ」河ノ水充
分ナルノ間ハ左程永キニハアラサレ氏毎年六月中旬ヨリ十二
月一日ニ至ル迄ハ少ナクモ二十萬「エークル」ノ地ニ供スルニ足
ルノ水河中ニ充分アリト又其河ノ兩岸トモ貳拾萬「エークル」ノ
地アリテ充分ニ能ク水利ヲ通スルニ相適スト又云ク其土水費
三十六「テカス」四分ノ三ノ公費ニ對シハ分ノ償補ハ信シテ豫期
スベシト又云ク其事業ハ大ニ諸地方ヲ益シ隨テ之ヲ富マスベ
シトセリ猶ホ孟買政府發行ノ六十号記録ニ就テ其詳細ヲ看ル
ヘシ

諸會社商會等ニシテ斯ル目論見ヲ企テ斯ル事業ニ從事シ得ル
ハ固ヨリ論ヲ俟タス夫レ然リ然リト雖モ苟モ會社商會等ヲシ
テ之ニ從事ヤシムルニ於テハ毫モ政府ハ之ト競爭ヲナスベカ

ラス宜シク其念ヲ絶ツベシ爰ニ於テハ政府須ラノ百般ノ事ニ
注意シ此目論見ノ如キ全國ノ殖産ヲ改良ヤシムルノ事業ヲ獎
勵保護スル所アルベシ

報告書中第三條ニ就テ觀ルニ千八百六十一年以來印度國內ニ
於テ創立ヤシ合本會社ノ員數ハ百ヨリ少カラスト然ルニ當
商法會議所ノ豫想スル所ニ依ルハ右ノ會社中諸銀行貸附會社
其他ノ組合ノ如キ多クハ千八百六十三年頃ヨリ千八百六十五
年頃ニ至ルマテ一時孟買港ニ於テ株券ノ價沸騰シテ先キヲ爭
フテ之レヲ買入ントセシ時ニ當リ創立ヤシモノニシテ爾來
開店廢業セシヨリ爰ニ久シトス

ヤメテ當管内ノ分ニ就キ古今ヲ比較スルアラバ是レ寔ニ其宜
シキニ適ヘリトス乃ハ之レヲ比較スルニハ千八百六十一年
其年末ニ當リ亞米利加ノ内亂起ル間ノ諸會社ノ員數并ニ其會

社ノ資本金ノ額數ト千八百七十八年間ノ會社員數并ニ資本額
數トヲ比較スルヲ以テ適當トス尤モ木綿紡績會社ト織物會社
トヲ取除カハ具比較モ大ニ權衡ヲ失スルヲアラントス
千八百六十一年現ニ孟買港ニ於テ營業セシ銀行七ヶ所ヲ以テ
數フルニ至レリ然ルニ目下其行數九店ニ及フ尤モ右ノ中一行
ハ佛京巴里ノ「コムプロト」ア、デエスコムプロトノ支店ニシテ他ハ
皆「バンク」銀行ノ代理店ニ係ル

凡リ孟買港ニ於テ創立開店セシ英國并ニ歐洲大陸ノ保險會社
ノ支店ハ許多アリト雖モ印度地方ノ創立ニ係リシモノハ僅ニ
火災保險會社二ヶ所、生命保險會社二ヶ所、海上保險會社二ヶ所
ナリ以上僅々ノ會社令存スル而已

蓋シ印度政府ノ政界ハ生命財產ノ兩者ヲ保險スルノ事業ヲ廢
ヤント欲スルニ似タリ抑モ保險ノ事業ハ英國ハ勿論其他苟モ

文明諸國ニ於テハ之ヲ施行セサルノ地ナシ殊ニ生命ヲ保險シ
火災ヲ請合フノ業ハ普ク英國ノ採ル所ニシテ英國ノ保險料
ハ極メテ低廉ナリトス

然ルニ印度全國若クハ當管内ニ於テハ生命ノ保險ヲ受クルハ
獨リ歐人ニ止マレリ然リ而ノ尋常印度ニ於テ賦課スル保險料
ハ頗フル高貴ナルガ故ニ歐人ト雖モ間々其生命ノ保險ヲ委托
スルヲアタハサルモノトス

火災保險ノ實施セラルハ現ニ當管内ノ諸市ニ止マルモノト
ス而シテ其保險者ト雖モ亦實際歐人ニ而已依頼シ歐人ノミ行
フモノトス

又印度ノ火災保險料ハ英國ノ火災保險料ニ以スレハ甚タ高
貴ナリ間々土人ノ中其財產ノ火災保險ヲ依頼スルモノアレモ
頗フル稀レナリトス然ルニ今度更ニ印紙議案ナルモノヲ千八

百七十九年四月一日法令ト定メシニ付從前生命保險証書面
千「ル」一「ブル」ニ付六「ア」ン「ナス」ノ印紙稅ヲ拂フベキ「ト」ナレリ然
ルニ又火災保險証書ノ印紙稅モ増加シテ五割トナルニ至レリ
乃チ之レヲ約言セハ保險証書面壹千「ル」一「ブル」ニ付四「ア」ン「ナス」
ヨリ六「ア」ン「ナス」ニ至レリ

猶ホ之レニ止マラス其上孟買府廳ハ五百「ル」一「ブル」ヨリ壹千「ル」
一「ブル」ニ至ルマデノ稅ヲ各火災保險會社ニ賦課シ以テ府廳消
防組ハノ寄附金トナスアリ

當商法會議所ノ考案スル所ニテハ此稅ハ過分ナリトス其然ル
所以ノモノハ他ナシ孟買港中土人居住市街ノ如キ火災ニ罹ル
最モ數回ナルモ其保險ヲ依頼セシ家屋ハ甚タ僅小ニ過キサル
「ト」テ顧慮スレハ此稅ノ重モキハ一目瞭然タレバナリ

綿製產ノ地方ハ錢路ヲ布キシヨリ内地ノ諸市ニ壓搾所ヲ取設

ケシモノ許多ニ及ビ其壓搾ノ力ニ依リテ凡ソ輸出用ノ綿ハ殆
ト皆風袋ニ充分ノ壓搾ヲ加ヘテ以テ孟買港ニ來ルガ故ニ運送
ノ費用ヲ省減スル「ト」實ニ鮮少ナラス

斯ノ如ク漸次私立ノ壓搾所設置セラル、ニ至リシヲ以テ忽チ
貿易上ノ需求ニ應スルニ及バリ大レ然リト雖モ内地ニ壓
搾所ノ設置増加スルニ隨テ孟買港ノ壓搾所減少ニ就ケリ

殊ニ輓近ニ至リテハ孟買ニアリシ壓搾所多クハ何レハカ跡ヲ
隱セリ依テ自今以後孟買港ニ於テ壓搾スル所ノモノハ寔ニ此
少ニ過キサルベシ

今ヤ當孟買港ニ一店ノ工業會社ナシ又許多ノ商會會社等ノ貿
易ニ從事シ嚮ニ亞米利加ノ戰爭ノ間ト其後引續キ一兩年間繁
盛ヲ極メシモノ等ハ既ニ爾來久シク閉店廢業ニ至レリ
夫レ然リ然リト雖モ猶ホ今日一ノ産業アリテ依然トシテ動カ

ス他ナシ乃チ綿紡績并ニ組織ノ産業是レナリ抑モ此産業ノ如
キハ百般ノ妨礙不幸(喻ヘハ亞米利加戦争間ニ綿ノ價騰貴シ其
後モ尚ホ数年價貴カリシガ如キヲ云フ)ニ罹ル而已ナラス連年
凶歉ノ打撃キタルヨリ貿易衰頽セシニモ拘ハラス爰ニ當管内
ニ於テ確乎其基礎ヲ据ヘリ

抑モ當孟買港ニ於テ初メテ綿紡績機ヲ採用セシハ實ニ千八百
五十四年ヲ以テ濫觴トナス然リ而シテ目下ニ至リテハ現ニ三
十二箇ヲ以テ數フルニ至レリ此等紡績會社ノ資本ハ總額三百
八十萬八千五百四十三封度ナリ

又現ニ紡績ニ從事セル紡錘ノ負數九十五萬五千三百四十六ニ
シテ織機ノ數ハ壹萬二百六十六ナリ且又之レガ為メニ雇ハレ
テ職ニ就クモノ二萬七千人ナリトス

右ノ外ニ猶ホ上國ニアル綿紡績并ニ組織機拾壹ヶ所アリ其資

本ハ七十八萬四千四百八十七封度ナリ又現ニ紡績ニ從事セル
紡錘ノ負數ハ大約十七萬九千五百ニシテ織機ノ數ハ千八百二
十八ナリ且又之レガ為メニ雇ハレテ職ニ就クモノ凡ソ六千人
ニ及フ

千八百七十四年ヨリ千八百七十六年ニ至ルマデハ當印度國地
方ノ製造品ハ需求頗フル好景氣ナリシガ故ニ先ツ暫ラク此年
間ヲ除ケバ此綿紡績組織ノ産業ハ未タ曾テ振起セシメナシ然
リト雖モ此業タル職工ヲ傭役スルガ故ニ職工輩甚ダ此業ヲ尊
重讃賞スルモノトス

凡ソ此業ニ傭役セラル、ノ職工ハ男女小兒トモ殆ト皆其給料
ハ仕事ノ多少ニ依ルモノトス而シテ各自ノ得ル所毎月セ「ル」
「ル」ヨリ四十「ル」マデノ差アリトス

夫レ此産業ヲ飽ク迄獎勵シテ以テ力ノ及ブ丈ヶ開發擴張セシ

ハルハ實ニ政府ノ職分ナリトス然リ而シテ政府ハ民間中製造
所ヲ新設創立セントスルニ土地ヲ貸與シ且ツ機械運輸等ノ用
ニ供スル為メ河流ヲ引ク等ノヲ許可スルノ外ニハ其内部ノ
事業ニ立チ入り干涉スルヲ止メルコソ其産業ヲ獎勵シ得ルモ
ノニシテ他ニ之ヲ獎勵スルノ道ナキト當會議所ハ信スルナ
リ
前文ヲ以テ當印度國鐵道道路ニ乏シキガ故ニ其貿易ノ開發上
ニ大ニ影響ヲ波及スルノ事ト併セテ産業ノ現況ニ論及セシヲ
以テ當會議所ハ切ニ當局者ニ向テ冀フ所アリ仰キ冀クハ當局
者ハ凡ソ現行ノ諸制限等特令其他トモ一切ノ如キ毫モ世ニ裨
益スル所ナク却テ貿易上ノ重擔トナル而已ナラス大ニ殖産ノ
開發上ニ害ヲ来スモノヲ即時ニ洗淨除却アラントテ政府ニ勸
言センヲヲ

凡ソ貿易ノ事殖産ノ件ニ政府干涉ヲ試ムルノ勢益々熾ナルハ
各地至ル所昭々乎トシテ明ラカナリ然ルカ故ニ今ニシテ速ニ
此干涉主義ヲ牽制スルニアラガレハ忽チ非常ノ災害ヲ来シ大
ニ貿易殖産ノ開發ヲ滯止スベシ猶ホ爰ニ此等制限ノ中社會ニ
取り一層重擔困難ナルモノヲ算出スベシ當商法會議所ノ考按
ニ依レハ是非此等ノ制限ヲ廢止セズンバ在ルベカラス
嚮ニ亞米利加ニ於テハ内乱ノ在ルアリテ綿ノ生産ニ從事スル
能ハザリシガ故ニ其供給ヲ當印度ニ仰キシニ付キ印度産ノ綿
是レ迄壹「ポンド」ニ付四五「ペンス」ノ處俄ニ十八「ペンス」ヨリ二十
「ペンス」ニ騰貴シ隨テ交物多キ綿ヲ輸出スルニ至リ人氣頗フル
引立チシ時ニ當リ孟買綿詭詐條例ナルモノヲ發行セリ是レ實
ニ千八百六十三年ナリ
一時物事斯ノ如ク異常ノ狀況ニ至リタルガ為メ殊ニ此條例ヲ

發スルニ及ヒタレハ亞米利加内亂鎮定シ貿易ノ形勢日ニ復セ
シヤ否ヤ忽チ異常ノ狀況何レヘカ消失スルニ至レリ
鏡道電線ノ兩者ヲ綿生産ノ地方ニ通シ以テ歐商ヲシテ當印度
國內地ニ於テ土着ノ生産人輩ト直接ノ取引ヲ行ハシムルニ適
セリ隨テ忽チ印度國生産ノ綿質改良セシヲ實ニ注目スベキモ
ノアリ當商法會議所意ヲニ此實分ノ改良ハ永世不易ノモノナ
リトス

當會議所ニ於テハ再三政府へ上申シテ以テ曾テ此詭詐條例カ
貿易上ニ裨益セシ以來年既ニ久シキト此條例ハ舊々綿詭詐檢
査局ノ便益ヲ而已謀リテ依然施行セラル、モノナルト則チ此
局ハ貿易上ニ特別ノ稅ヲ賦課シテ以テ其經費ニ供スルモノト
ス輒近印度産ノ綿質改良セシハ前文ニモ既ニ開陳セシカ如ク
此詭詐條例ノ效ニ因ラスシテ全ク綿生産地方ヘノ往復ノ便ヲ

改良セシヲ隨テ民間ニ起業興産ノ念奮起セシヲ貿易ノ真理ナ
ル此三者ノ然ラシムルモノナルコトヲ開陳セリ

更ニ實事ヲ引テ當會議所ノ說ノ妄ナラザルヲ証センニ凡
詭詐條例ノ現ニ施行セラル、地方ニ於テハ毫モ其條例ノ效ナ
キニ却テ其條例ノ施行ナキ地方ヨリ重モニ精良ノ綿ヲ當孟買
港ニ賣ラスヲ以テ証明スヘシ

然ルニ客歲亦其條例ヲ改定セリ千八百七十八年第七号孟買條
例ナルモノ即チ是レナリ是レ實ニ西印度ノ商賈社會ト英國マ
ンチエスター并ニリバプール兩地ノ商法會議所ハ其議ニ異論
アルニモ拘ハラズ改定セシモノトス

當商法會議所ニ於テハ輒近更ニ道臺閣下ニ書ヲ呈シ以テ其詭
詐條例ノ廢止ヲランコト仮令テ若シ其條例廢止コトニ決ガル
トモ輸出用ニ供スル充分ノ壓搾ヲ施セシ袋入レノ綿ノ其條例

ノ施行ナキ地方ヨリ當孟買港ニ來ルカ故ニ其等ハ孟買港ノ綿
詭詐検査局ノ經費ニ供スル為メ壹袋ニ付二「アンナス」ノ検査料
ヲ即時ニ免ル、^一「ヲ」得ベキ^一ト又詭詐取調懸ノ検査官ハ其檢
査料ニ酬ユル文々ノ検査モナサス決シテ何等ノ職務ヲモナサ
ル^一ト^一ヲ陳白セリ
千八百七十八年間ニ當孟買港ヨリ海外諸港ヘ輸出セシ綿七十
四萬壹千袋ノ中凡ソ四十萬袋ハ充分ノ壓榨ヲ施シ船積ノ用意
整フテ「バーラス」中央諸地方「マドラス」及ビ「ベンガル」ノ諸地方ヨ
リ來リシモノニ係ル（但シ此等ノ諸地方ニハ臺モ綿詭詐條例ノ
施行ナキ所ナリ然レモ孟買港綿検査官ノ給料ニ充テルノ資金
ニ備フル為メ總額五萬^一「ル」^一ノ稅ヲ納ムルモノトナス）然リ
而シテ殘額三十四萬壹千袋ハ過半土人居住ノ州郡ヨリ輸送ス
ル所ニ係ルモノトス

右ノ詭詐條例ノ外猶ホ地方條例ナルモノアリ是レ當管内ノ綿
生産ノ業騷々乎トシテ進歩スル所ノモノヲ痛ク妨害スルモノ
ニシテ即チ千八百七十三年發行ノ第五號孟買條例是レナリ此
條例ハ諸製造所ニ備ヒアル蒸氣釜并ニ機關ニ就テ時々強迫ノ
検査ヲナス為メニ設ケシモノナリトス

實ニ此條例ハ最モ專權暴カヲ以テ施行スル所ノモノニ係ル其
條例中異論ヲ唱フベキ廉固ヨリ多フシト虽氏中ニ就テ最モ異
論スヘキハ検査官ニ無限ノ權力ヲ付與シ置ク^一是レナリ實ニ
其權力無限ナルカ故ニ検査ノ都度蒸氣釜并ニ機關ヲ用途ニ供
應スベカラスト令シ機關ノ如キハ命シテ片々ニ解カシメ得ル
ノ權ヲ有ス故ニ其検査官ノ見込ヲ以テ漫ニ斯ノ如キ令ヲ發シ
為メニ數日間製造所ヲ閉チ職工ノ常職ヲ失ハシムルモノトス
職工ノ製造所ニアルモノ其事業ノ多寡ニ依リ四百名ヨリ三千

五百名ニ至ルヲ以テ常トナス

抑モ英國ニ於テハ斯ノ如ク諸製造所ノ蒸氣釜若クハ機関ニ就テ強迫ノ検査ヲナスノ法令ヲ一モ英國內ニ設ケザルハ當局者ノ明知スル所ナルハ固ヨリ論ヲ俟タス

夫レ斯ル法令ヲ布クノ目的ハ命ノ危難ヲ豫防スルニアル而已人命ヲシテ災害ニ罹ラシムルハ唯々蒸氣釜ノ破裂セシ時ニアルニ過キス故ニ當會議所ニ於テハ其條例中斯ル不慮ノ災害ヲ豫防セント欲スル目的ニ至リテハ固ヨリ彼是條例ヲ乱離セシムルヲ好マス然リト虽モ今日ノ如ク官府ヨリ特ニ検査官ヲ命シテ是非検査ヲ為サシムルニモ及ハザルベシトス

千八百七十六年ノ十月ニ當リ孟買上等裁判所ニ於テ至要ノ審判ヲ開キシヲアリタリ其法度ノ判決スル所ニ依リテ千八百七十三年發行ノ第五号條例ノ壓制暴力ニ出ツルヲ判然トナルニ

至レリ

此審判ヲ以テ誰レカ正誰レカ非ナルヲ判然セシヨリ當商法會議所ハ最早政府別ニ検査局ヲ設ケ置キテ蒸氣釜ヲ検査スレニ及ハス宜ク其局ヲ廢止スルノ公益タルヲ政府ニ向テ主張スルノ念ヲ起スニ至リシナリ

令ヤ民間ニアル機械師ニテ充公能ク其任ニ堪ユル者数名アリ依テ此等ノ者ヲシテ官府ヨリ命任スルカ若クハ官許スルニ於テハ此等ノ輩ハ些少ノ手数料ヲ申シ受ケテ以テ諸製造所ノ蒸氣釜ヲ喜ンテ検査スルナルベシ然リ而シテ此輩ノ検査ハ現行官府ノ検査ト固ヨリ同様ノ功力アル而已ナラス却テ夫レヨリハ一層費額ヲ節減スルヲアルハ當會議所ノ誓テ保証スル所ナリ又夫レ而已ナラス民間ニ於テ検査スルヲニ至ラハ是レ迄諸製造所ノ持主輩カ検査ノ為メニ艱難辛苦ヲ嘗メ損害ヲ

被リシモノ免ル、ノ實益アルヘシトス

抑モ機関等ノ検査ニ政府ノ干涉スベキ理由毫モアルナシ請フ
看ヨ機関ノ過失等ヨリ不慮ノ災害ヲ起シ人命其外ヲ損傷セシ
タルヲハ實ニ甚々稀ナリトス然リ而シテ仮令モ數度機関ヲ
検査スレバトモ到底斯ル不慮ノ災害ヲ防クハ極々至僅ナ
ルニ過キザルベシ

凡ソ機関運轉ノ諸部分ヲ殘ラス検査センニハ其機関ヲ解ヒテ
片々トナシ一々之レヲ檢査シ然ル後復々之レヲ元ノ條ニ組直
サバルベカラズ然レハ其間經過スル所ノ時間數日ニ渉ルモノ
トス

苟モ兩三日間モ製造所ヲ閉チルカ若クハ夫レヨリ猶ホ多クニ
スレ少ナキニスレ其製造主ニ莫大ノ損失ヲ被ラシムル而已ナ
ラス其職工輩ヲシテ常職ヲ失ハシムルモノトスサレバ検査ハ

製造所閉止ノ原因トナルモノナルニ検査シテ不慮ノ災害ヲ防
クヲ能ハザルアラハ此検査ヲ施スノ法令ハ徒ニ殖産ヲ廢スル
ノ制限法トナルニ過キス

今マ現ニ千八百七十八年第九号蒸氣釜検査ノ新議案ヲ發セリ
依テ不日孟買鎮臺ノ許ヘ送付シ諸規則等制定ノ手續ニ至ルナ
ラン此新議案ニハ現行ノ一千八百七十三年第五号條例中蒸氣釜
検査ニ關スル丈ケノ廢止スベキノ議ヲ申白セリ然リト雖
氏何時ニテモ孟買「ガブルメント」カゼツト新聞ヲ以テ布告セハ
凡ソ何レノ^{地方}ニ限ラス此新條例ヲ施行セル所ニアル蒸氣釜
ノ検査ニ此新條例ヲ施用スルノ權ヲ鎮臺ニ付與スベキ旨ヲ申
白セリ

今日ニ至リテモ猶ホ印度政府カ此検査ノ權ヲ保有セント欲ス
ルト蒸氣機関ノ検査ニ關シ暗ニ説ク所ノ意成文律書ニ全ク脱

セザルトハ我人ノ甚々遺憾トスル所ナリ其故何トナレハ蒸氣
機關ノ檢查ニ此新條例ヲ使用スルヲ復々實施セラル、ニ至リ
隨テ當國ノ如ク各事各物ニ付政府干涉主義ヲ施スヲ官負社會
ノ甚々大ニ熱望スル所ナルニ付蒸氣機關ノ檢查ニ此條例ヲ使
用スルノ危殆最モ甚シキニ至リテハ檢查官自ツカラ此條例ノ
苛刻嚴令ヲ久シキニ傳フルノ緊要ナルヲ主張シ大ニ其權力ヲ
増スニ至ルベキナリ其條例コソ最モ壓制ニ出テ加フルニ全ク
不用無益ニ屬スルモノナトス又愈蒸氣機關ノ檢查ニ此條例
ヲ使用スルヲニ至ラハ諸製造所へ更ニ稅ヲ賦課シテ以テ其檢
查局ノ經費ニ充ツルニ至ルベシ然ルモ此檢查アルガ為メニ毫
モ當管内ノ公衆ニ取り公益ヲ生スルヲナク又當管内ノ諸製造
所ニ取りテモ寸分ノ益ニモナラスシテ却テ製造所ノ為メニハ
若干ノ損害ヲ來スモノナリトス

凡、新議案ノ條款ハ各條各款專擅壓制ニ出テザルハナシ殊ニ
蒸氣釜檢查ノ條款ヲ以テ然リトナス然ルカ故ニ若シ前後ヲ顧
ミザルノ檢查官檢查ニ從事スルアラハ此釜檢查ノ條款、製造
所所有主ニ取り最モ壓制暴力ヲ被ムルノ甚シキモノトナス
現行ノ條例ニ據レハ檢查官ノ檢查済証書ハ滿壹々年間ノ效力
アルモノトナス然リ而シ、是レ迄未々嘗テ此証書期限ヲ減縮
スルヲ要スル程ノ不慮ノ災害ヲ生セシヲナシ然ルニ此度ノ新
議案ニ於テハ此証書期限ヲ六ヶ月ニ減縮スベキヲ申白セリ
猶ホ夫レ而已ナラス今度ノ新議案ニ依レハ最大ノ專權ヲ更ニ
檢查官ニ附與スルモノトス其第十三條ニ云ク凡ソ証書期限以
内何レノ日タリ凡日出ヨリ日没迄ノ間何時ニテモ無テ檢查済
ノ証書ヲ付与シ置キタル蒸氣釜ノ中何レヲモ再査シ以テ其釜
ノ猶ホ損所等ナキヤ否ヲ鑑定シ併ヤテ其付与シ置キタル証書

ヲ取上グベキ原因ノアルヤ否ヲモ調査スルノ權ヲ検査官ニ付
與スト

當商法會議所ニ於テハ何程ニ深思萬考スルモ此新議案ノ如キ
法令程百般ノ殖産ヲ痛ク衝突スルモノアルヲ見ス果シテ右ノ
如キ專權ヲ検査官ニ付與シタル上ハ検査官ハ徒ニ僻心怨恨ヲ
懷キ之レニ加フルニ賄路ヲ貪ルノ念ヲ起シテ毎週製造所ノ釜
ヲ検査スヘシ或ハ每週ヲモ俟タスシテ數回検査ニ從事シ検査
ノ都度徒ニ製造所ヲ閉ル效日ニ至ラン

是レ迄製造所職工ノ事ニ付テハ政府干涉スル所ナカリシ然リ
而シテ當會議所ノ思考スル所ニテハ政府此事ニ干涉セザルカ
為メニ斯ク迄職人社會ニ製造事業ヲ欲スルノ念ヲ奮起シ今日
ノ成功ヲ奏スルニ至リシナルベシトス

然ルニ近頃當會議所ノ聞ク所ニ依レハ政府ニ於テハ印度ハ製

造所條例ナルモノヲ及ホサントスルノ企テアリト然リト虽モ
千八百七十五年三月孟買政府ヨリ命ヲ奉シ孟買製造所ノ職工
輩ノ狀況如何ヲ調査シ併セテ製造所條例ヲ發行スルノ要因ナ
ルカ否ヲザルカラ查明ヤシ委員等ノ衆説ニテハ製造所等ノ
ニ付何等ノ法令ヲ布クニモ及ハサルトセリ

抑モ此製造所條例ヲ印度及ホサントノ議ハ某人ノ在ルアリ
テ地方官廳へ哀訴ヤシヨリ發セシニモフランス又職工取扱ノ殘
割ナルヲ等ヲ政府ノ視察ヤシヨリ生ヤシニモアラス其條例ノ
據テ來ル所ハ定ク英國ヲ以テ根據トス

英國ニ於テ製造所條例ヲ設ケシハ「ロールド、アルソル」氏制定
ノ條例ヲ以テ濫觴トナス

抑モ英國ニ於テ此條例ヲ布キシハ印度ト甚々主旨ヲ異ニセル
モノナリトス其然ル所以ノモノハ他ナシ英國ノ如キハ寒氣甚

烈ナルニ職工輩現ニ苦役ヲ受ケ非常ニ困難スルヲ視察シ政府
仁愛ノ心ヲ加ヘシト加之職工輩大ニ衆庶ノ感想ヲ奮起セシメ
タルトニ依リテ此條例ノ發行セラル、ニ至リシモノナレバナ
リ其後英國ニ於テハ度々製造所議案ヲ議事院へ差出し衆議ニ
付セシマアリシト虽モ何時モ其主張者ハ職工輩ニアラザルハ
ナカリシ

英國ノ狀況ハ實ニ斯ノ如シト虽モ當印度ニ於テハ未タ嘗テ一
回ダモ印度製造所ノ職工リ仕事ノ時間取扱方ノ殘割等ノ一
ニ付テ哀訴歎願セシモノナシ印度製造所ノ職工輩ハ哀訴歎願
トコロデハナク却テ競フテ製造所ノ傭工トナリ以テ大ニ其生
計ヲ助ケシト熱望スルノ色アリトス

又印度製造所ノ建築ハ美ニシテ空氣ノ流通ハ申分ナク機械ノ
保護ハ充分行届キ温度ハ製造場内ト虽モ場外ヨリモ左迄甚シ

カラス之レニ加フルニ當管内ニアル製造所ハ一テ所タリ其日
出前ニ仕事ニ取懸ルモノナク又日没後迄従事スルモノモナシ
且又何レノ製造所ニ於テモ其職工ニ給料ヲ拂フニハ仕事多
寡ニ隨テ給料ヲ拂渡スガ故ニ自ツカラ緩々徐々トシテ容易ニ
仕事ヲナスモノトス是レヲ英國ノ職工ノ如キ非常ノ勤勞ニ服
從セシメラル、者ニ比スバ實ニ霄壤ノ差アリトナス

以上ノ諸制限ノ外ニ又當印度國ニ於テハ土人居住ノ州郡而已
ナラス殆ト英領印度中各市ニ於テモ其境界ヲ通過スル諸品物
ハ運送税ヲ賦課スルモノトス是レ實ニ印度全國ノ貿易製造ノ
開發上ニ取リ至大ノ障礙トナルモノナリ

印度政府ニ於テハ千八百六十八年十一月六日ノ決議ニテ收税
規則ヲ制定シ以テ諸支廳等ニ於テ施行スベキト定メタリ其
規則即チ左ノ如シ

第一條

凡、此規則中掲載ノ制限ヲ遵奉スベキモノトス

附

凡ソ地方官負ハ左ニ列載セサル物品類ハ何レノ種類ノ物タリトモ何等市税ヲモ賦課スベカラサルモノトス其品名即チ左記ノ如シ

第一 凡ソ人間若クハ動物類ノ用ニ供スル食用品又ハ飲用品

第二 凡ソ屠殺用ニ供スル動物

第三 凡ソ焚物用ノ品物、點火用ノ品物若クハ洗濯用ノ品物

第四 凡ソ家屋建築用ノ品物

第五 藥劑、護謨、香料、並ニ薰物

第六 烟草

第二條 凡ソ左記ノ品類ハ、右ノ如キ税ヲ賦課スベカラサル

モノトス

第一 凡ソ海關税ヲ拂フヘキ品物ニシテ海路ヲ經テ印度ヘ輸入シタル物

第二 鹽

第三 鴉片

第四 凡ソ印度製ノ釀造精酒類并ニ國產税若クハ酒汁鹽税ヲ拂フベキ藥劑

第三條 凡ソ何等ノ品物ニ限ラス一市内ヘ輸送シ現ニ其市内ノ使用消費スルモノニ非ラサレハ右ノ如キ税ヲ賦課スヘカラサルモノトス

然ルニ其後千八百七十一年一月六日印度政府ヨリ更ニ令ヲ發シテ以テ猶ホ左記ノ品物ヲモ左ノ如キ税ヲ拂ハシムルコト定メタリ其品名即チ左ノ如シ

第一 凡ソ衣服用等ノ織物并ニ製造品類

凡ソ金屬類并ニ金屬製ノ物品

但シ此金屬類并ニ金屬製ノ物品ハ賦課スル税額ハ從價税壹分半ヨリ上ヘ出デザリキ

然レモ其他ノ廉ニ至リテハ前キニ千八百六十八年ノ十一月六日決定ノ規則中掲載ノ分ヲ亦千八百七十一年ノ癸卯并ニ千八百七十七年九月中印度政府ヨリ諸支廳ニ達セシ信書ヲ以テ最前通りニ再定セリ

若シ市税ヲ賦課スル以上列載ノ諸品ニ止マラシメ隨テ相當ノ割合ヲ以テ之レヲ賦課シ加フルニ再輸出ノ品物ハ税ノ拂戻スベキノ寛法ヲ設ケタランニハ其品物ハ諸市ノ消費スル所トナリ商賈社會モ苦情ヲ訴ヘズキ理由ナキニ至ラン是レ此税ヲ

賦課スルハ全ク其諸市ノ利ヲ謀リテナス所ナリ然ルニ當局者ニシテ若シ印度政府ヨリ癸卯并ニ此市税規則ハ當管内ニ於テ故意ニ怠慢輕忽視ヤラル、フヲ知リタランニハ驚愕ノ念ヲ起スハ固ヨリ無論ナルベシ

今ヤ市税ハ凡ソ海關税ヲ拂ヒタル品物ニモ否ラザルモノニモ又消費若クハ販賣用ノモノナルニモセヨ否ラザルニモセヨ且又他ノ場所ヘ運送スベキモノニモセヨ某市ノ境界内ヘ一旦輸送セシ品物ヘハ殆ト各品物ニ至ルマテ税ヲ賦課スルノ姿アリトス

又印度政府ニテ規則ヲ布キ以テ再輸出品ノ税ヲ拂戻スベキトト定メタレモ今ハ故意ニ徒法視セラル、ニ至リ實施セラル、フ稀レナルニ至レリ現ニ諸市ノ内二三ノ地ニ於テハ假令何様再輸出ノフアルトモ毫モ税ヲ拂戻サス然ルニ又他ノ諸市

ニ於テモ頗フル苛刻嚴密ニシテ殆ト拂戻シ税ヲ得難キ程ナ
リトス故ニ此市税ハ衆庶ノ為メニ甚タ惡シキモノトナス
印度政府ニ於テハ早クモ此税ノ為メニ百般ノ事物ニ非常ノ重
擔ヲ被ムラシメ隨テ印度全國ノ貿易開發上ニ最大ノ妨礙トナ
ルヲ了リテ此賦課ノ不可ナルヲ論スルニ至レリ假令モ政府其
不可ナルヲ知ルトモ諸文廳其外ニ至ル迄是レ迄ノ如ク依然拂
戻シ税ノヲ等ヲ輕忽視シ徒法トナスニ於テハ政府如何ナル議
決シ規則ヲ設クルモ徒勞ニ属スル而已

抑モ當印度國諸地方ノ殖産開發スルニ至テハ隨テ全國人民ノ
改良進步ヲ來タシ而シテ傭銀ノ騰貴ヲ生スルニ至ルハ昭々乎
トシテ明ラカナリ夫レ然リ然リト虽モ畢竟其如何ハ全ク勤勞
市場ノ狀況ニ據ラザルベカラズ其故何トナレハ英貨壹千七百
萬封度ノ木綿織物ヲ製造スルニ付テ諸職工ノ得ル傭銀ハ若シ

當印度二億四千萬ノ人民中職工ニ使役スベキ者ニ比較豫算ス
レハ蓋シ僅小ニ過キザレバナリ

若シ當印度ノ貿易斯ノ如ク巨額ノ輸出ヲ為スニ至テハ輸出入
ノ差常ニ印度ニ利アルニ至リ隨テ大ニ為換相場ノ勢ヲ救ヘル
ヲアルベシ今近ク例ヲ引テ之レヲ証センニ若シ當印度國ヨリ
生綿壹千百万封度ヲ輸出フルヲ止メ更ニ其生綿ヲ自國ニ於テ
製造シタランニハ印度國ニ於テハ職工ノ傭銀其外ノ為メニ英
貨六百万封度ノ差ヲ得ルニ至ルベシ依テ輸出入ノ差ヲ比較ス
レハ此高丈々印度ノ為メニ利益トナルベシトス但シ此壹千百
萬封度ノ生綿ハ毎年之レヲ英國ニ輸送シ英國ニ於テ製造シテ
以テ再ニ印度ニ送り壹千七百萬封度ノ價ヲ得テ印度人ニ賣渡
シ印度國ノ用ニ供スルモノナリトス

固ヨリ當會議所ニ於テハ後來何様ニ印度國ニ於テ木綿物製造

ノ業ニ從事スルトモ其金全額ヲ製造シ得ルヲ豫メ明言スルア
タハス只以上開陳スル所ノモノハ聊カ經濟ノ道ヲ説クニ過キ
サル而已

凡ソ諸製造ノ業ヲ盛衰スルハ獨リ民間ニ起業興産ノ念奮起ス
ルト否ラサルトニアル而已其然ル所以ノモノハ他ナシ孟買製
造ノ生木綿糸其外ノ品物等支那日本其外ノ諸國へ輸出セシモ
ノ已ニ巨額ニ達セリ然リ而シテ是レ全ク臺モ政府ノ補助干涉
幸ヲ受クルナク又貿易ノ衰頹非常ナルモ拘ハラス其製造者
手ノ初メニ於テ斯ノ如ク盛昌ニ至リシモノナリトス

過ル三々年間當印度國諸地方製造ノ木綿物類當孟買港ヨリ海
路ヲ經テ海外へ輸出セシ總額即チ左ノ如クナリシ

千八百七十六年

水綿織物

二千八百十六萬四千「ヤルド」

千八百七十七年

同

四千〇八十一萬三千六百七十一「ヤルド」

千八百七十八年

同

四千六百十四萬六千四百六十九「ヤルド」

千八百七十六年

水綿糸

千八百四十萬四千七百四十「ポンド」

千八百七十七年

同

二千五百七十六萬八千三百三十一「ポンド」

千八百七十八年

同

三千三百十一萬六千三百四十九「ポンド」

然ルニ又當印度諸地方製造ノ木綿物類右三々年間ニ當孟買ヨ
リ鐵路ヲ經テ内地諸錢道停車場迄輸送セシ總額即チ左ノ如シ

印度量目「ヤウインド」ハ十二「ポンド」
七分ノ二

千八百七十六年

木綿織物

十八萬四千五百七十八「マウインド」

千八百七十七年

同

十八萬千二百三十二「マウインド」

千八百七十八年

同

十八萬七千〇七十四「マウインド」

千八百七十六年

木綿糸

八萬九千七百六十四「マウインド」

千八百七十七年

同

八萬三千九百一「マウインド」

千八百七十八年

同

六萬七千七百六十一「マウインド」

當印度國ニハ木綿製造ノ外猶ホ他ノ産業アリトス當會議所意

フニ其産業ハ他日大ニ印度興隆スベキノ色アリトス紙製造

ノ業ノ如キ即チ其一ナリ蓋シ紙製造ノ業ハ殊ニ當印度國ニ最

モ能ク適應スルモノタリ其然ル所以ノモノハ他ナシ當印度國

ハ紙製造ノ用ニ供スベキ重モノナル諸品ニ富ムアレバナリ尤モ

此有用有益ナル紙製造ノ業ヲ當印度ニ行フニ付キ最モ至難ト

ナルハ廉價ニ水ノ供給ヲ充分ニ得ルノ一事ニアリトス

其次ハ毛製造ナリ此業ノ如キハ僅ニ練熟ヲ得テ其業ヲ完フス

ルヲ要スルニ過キス過ル三ヶ年間ニアリテ英領印度ヨリ輸出

セシ生毛ノ總額ハ即チ左記ノ如シ

千八百七十六年分

二千三百七十六萬七千六百九十二「ポンド」

千八百七十七年分

二千四百五萬六千七百六十七「ポンド」

千八百七十八年分

二千三百七萬五千三百二十三「ポンド」

現ニ「カルカッタ」ニ於テハ麻類ノ製造充分ノ開發ヲ来スアリト

ス又當孟買港ニ於テハ今僅ニ製造所一ヶ所ヲ創立セシニ過キ
ス尤モ生糸製造場ニヶ所其外製鐵所數ヶ所ヲ開設スルニ至レ
リ
蓋シ機關製造師、機械師、磨工等ノ業ヲ當印度ニ開カハ印度ノ製
造場所所有主ニ取リ非常ノ便益トナルベシ

夫レ此製造場所所有主ハ其機械ヲ一トシテ英國ニ仰ガザルハナ
シ故ニ若シ其所持ノ機關ノ内圓壻ノ蓋破損スルヲアレバ更ニ
英國ニ注文シテ新蓋ヲ次ノ其手許ニ到ル迄空シク數ヶ月製造
所ヲ閉ケ休業スルヲ常トス然ルニ政府ハ未タ此等ノ機械製造
等ノ業ニ關シ其干涉ヲ施シテ以テ強壯ノ少年輩ヲシテ此業ニ
就クヲ獎勵セシナシ

抑モ印度礦物ノ利源ハ頗フル巨額ニシテ實ニ無量ト云フベシ
故ニ政府大ニ地質學者ヲ雇入レ此等ノ利源ヲ檢査セシメバ大

ニ益スル所アルベシ而シテ其得ル所ノ報告ハ一々之レヲ刊行
シテ以テ世ニ播布スベシ

凡ソ此等利源ノ開發ハ先ツ以テ諸礦山中左迄費額ヲ要ザサル
便易ノモノニ就テ政府著手セズンハアルベカラス

此等ノ事業ヲ起シ愈出入上ニ於テ益スル所アルヤ否ヤハ豫メ
先見スベカラザルハ固ヨリ論ヲ俟タスト虽モ非常ニ節儉ヲ守
リ冗費ヲ省キタランニハ其入ル所ヲ以テ出ル所ヲ償フハ難キ
ニアラザルベシ

若シ果シテ斯ノ如キ場合ニ至レバ必ラス英國本國ノ財主輩ハ
此印度大國礦物ノ利源ヲ開發スル為メニ創立セシ諸會社等ハ
其資本ヲ貸與スルニ至ルベキナリ

煙草耕植并ニ製造ノ業タル印度國ニ於テ最モ盛ニ改良開發ス
ルヲ得ルニ適スルモノナリ故ニ若シ政府カ自他諸國ノ煙草耕

植製造上ノ經歷ニ據リテ印度國中煙草耕植製造ニ適スル諸地
ハ大ニ支廳ヲ設ケ其入費等ヲ各ムヲナクンバ有益ノ結果ト貴
重ノ報告トヲ得テ以テ大ニ民間ニ此業ヲ開發スルニ至ラン然
リト虽氏最前耕植ノ製造ヲ試ムルノ間ハ益ミ入ル所ヨリ出ル
所多カルベシ

今爰ニ筆ヲ擱キ此文ヲ結ハントスルニ當リ當會議所ハ切ニ當
局者ニ向テ望ム所アリ仰キ冀クハ凡ソ以上開陳セシ所見ニ就
テ當局者ノ深思細考スル所アランヲ殊ニ内地往復ノ線路ヲ
擴張改良スルヲ貿易殖産上ニ關スル諸制限等廢止ノヲトニ
付テ深ク考フル所アランヲ欲ス

當會議所ノ見ル所ニ依レバ凡ソ印度國百般ノ利源ヲ開發シ飢
餓ノ患害ヲ防キ貿易製造ノ増殖ヲ来シ加フルニ農工社會ノ生
計上其外ニ一般ノ改良ヲ及ボスニハ内地往復ノ線路ヲ擴張改

良シ隨テ貿易殖産上ノ諸制限等ヲ除却スルノ外他ニ良法ナキ
ト信ス

議長

エム、モワット

書記

ゼー、ゴールドン

